

海外から移住し、次代の農業農村の担い手として活躍する新規就農夫妻を訪ねて、今年の抱負を聞きました。

丹後・中丹・南丹・山城の農村地域に溶け込み、楽しく農業を実践している皆さんを紹介します。

……………（謝辞）……………

茶園森福（和東町）の森崎優さんに元気な「虎の子」のイラストを描いていただきました。ありがとうございました。

地域農業を支える 海外出身の担い手が活躍



山城

タイ → 和東町



ジャックファーム(Jack Farm)
トーンチム・パトムタットさん
後藤なつきさん

5年前にタイから和東町に移住したトーンチム・パトムタットさん(39)と後藤なつきさん(37)夫妻の写真を、タイの子どもたちを支援するボランティア活動を通じて知り合った後藤さんと10年前に結婚し、2人の子どもが誕生した。

妻の帰省に同行し、和東町の知人(新規就農者)を訪ねた際、茶畑の景観と茶農家の暮らしに魅了され、「和東に移住して茶農家になりたい」と決心した。

移住後、和東町内の茶農家

「お茶で“世界の人の健康”を応援！」

南丹

アメリカ → 京丹波町



ポポーを収穫するパトリック&祥子クラインさん

ポポーガーデンス
パトリック・クラインさん 祥子さん

京丹波町で農地を購入し、北米原産のポポー(約400本)を栽培するパトリック・クラインさん(63)と祥子さん(63)夫妻が、綾部市で英会話教室を営むクライン夫妻は、教室の生徒からプレゼントされたポポーの味に魅せられ、11年前に栽培を開始した。ポポーの栽培が盛んな米国ケンタッキー州と気候が似ているため、「京丹波町でも栽培でき

幻のフルーツ
ポポーの栽培を拡大！」

丹後

韓国 → 京丹後市



畑で子どもたちと過ごすイ・ホソンさんと湊大輔さん

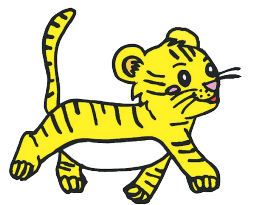
イ・ホソンさん
湊大輔さん

3年前、京丹後市弥栄町に移住し、近所の農業法人に就職したイ・ホソンさん(39)と湊大輔さん(39)夫妻。湊さんは会社の農場でオーガニック野菜を生産し、イさんは直営カフェのキッチンで調理を担当している(現在、育児休業中)。

イさんは韓国国チェジュ島出身で実家はミカン農家。学生時代に中国留学で京都市出身の湊さんと出会い、2010年に結婚した。オーストラリアで5年間暮らした後、京丹後市に移住。長女世奈ちゃん(3)、次女理奈ちゃん(0)が生まれ、家族4人で暮らし始めている。

大輔さんは、農業法人で週4日働き、週3日は畑25アールを借りて自分で農業を営む。白菜、トウモロコシ、ネギなど「キムチに使う野菜」を主に栽培し、収穫した野菜は市内の農産物直売所(きちやり

白菜から「故郷のキムチ」に挑む



中丹



フランス → 福知山市

お手伝いで
集落全員が“友だち”に！

ペリエ・ニコラさん
沢田さやかさん

「農業大好き！お手伝いをして喜ばれるとうれしい」と話す福知山市三和町の農家民宿『ふるま家』のペリエ・ニコラさん(39)。

南フランス出身。パリの大学の教員として働いた後、長期休暇を取り、31歳で世界旅行へ。農作業を手伝い食事と宿を得る旅人(ウーファー)として日本を旅行中、『ふるま家』を営む沢田さやかさん(48)と出会い、6年前に結婚した。野菜や米作り、薪割りなど、田舎暮らしを満喫しながら、息子のテオくん(5)の子育ても楽しんでいる。

「凡帳面で働き者」とさやかさんは、集落の共同作業に加わり、野菜の共同作業に加わり、野菜の販売宿を得る旅人(ウーファー)として日本を旅行中、『ふるま家』を営む沢田さやかさん(48)と出会い、6年前に結婚した。野菜や米作り、薪割りなど、田舎暮らしを満喫しながら、息子のテオくん(5)の子育ても楽しんでいる。

京都

京都府支局

京都府農業会議
京都府西別館内
075・441・3660



委員の最適化推進活動と
集落連携組織の取り組みに全力伴走

「ふるま家」を営む沢田さやかさん(48)と出会い、6年前に結婚した。野菜や米作り、薪割りなど、田舎暮らしを満喫しながら、息子のテオくん(5)の子育ても楽しんでいる。

新年のごあいさつ

京都府農業会議会長 栗山正隆

新年あけましておめでとごさいます。

この2年間の外食・観光需要の減少は、米をはじめ、特産物である大納言小豆や京野菜、宇治茶、日本酒、牛肉などの販売不振・価格低下とともに、農業農村に大きな影響をもたらしました。また、新型コロナウイルス感染症防止のために話し合いが途切れた地域もあり、農地・農業農村を守る活動にも影響が出たところです。

こうした中において、農業委員会における非農地判断の具体化とともに、農業委員・農地利用最適化推進委員が地区連絡会議を構成し、地域リーダーや担い手、行政が協働して、農家アンケートや農地利用地図づくりを行い、「京丹波の場プラン」の実質化に取り組む地域が増えています。また、農地利用最適化推進委員が地区連絡会議を構成し、地域リーダーや担い手、行政が協働して、農家アンケートや農地利用地図づくりを行い、「京丹波の場プラン」の実質化に取り組む地域が増えています。

さらに、昨年適化推進活動を支援してまいりましたので、皆さまの一層のご理解をお願いいたします。

読者の皆さまにとって、本年が良い年になりますことを祈念し、新年のごあいさついたします。